

令和4年度 自己評価表 (年度当初)

中長期目標 (学校ビジョン)	これからの社会に向け、たくましく生きるための学力や豊かな人間性を育み、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。
-------------------	--

今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びの推進</li> <li>規範意識と多様性の受容力の向上</li> <li>地域貢献力の育成</li> </ul>
----------	--

年度当初					評価結果(1月)		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 主体的な学びの推進	学びに向かう意欲・意識の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○12月末日現在、授業関連(授業放棄・授業さぼり)で指導改善カードを受けた生徒は8名、のべ16件(全て1年次生)であった(R2:2名)。</li> <li>○学校評価アンケートで、学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をした生徒が91.5%。学ぶ内容や進め方に満足していない生徒の割合が前年比14ポイント増。</li> <li>○日野高版の「ふるさとキャリア・パスポート」を作成し、進路用ファイルを用いたポートフォリオを蓄積した。</li> <li>○「課題研究」におけるルーブリック評価を継続的に実施し、自己有用感や客観的な視点を育成した。「(人の役に立っていると思う)2年次44.8%→3年次57.1%)」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業関係で指導改善カードを受けた生徒が延べ5人以下。</li> <li>○落ち着いて安心して授業に参加できると回答する生徒が90%以上。</li> <li>○学習への取り組み姿勢に肯定的な回答をする生徒が90%以上。</li> <li>○進路指導に肯定的な回答をする生徒が80%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びのルール」を毎月初めに確認し徹底する。</li> <li>○ICT機器を活用するなどして、生徒による授業評価を把握し、授業計画に反映する。</li> <li>○担任面談で、家庭学習調査の結果をもとに、家庭学習の習慣化を促す指導を行う。</li> <li>○進路ガイダンスや面談等、キャリアカウンセリングの充実を図る。</li> <li>○「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」においてルーブリック評価を取り入れつつ、生徒の自己有用感と客観的な視点の育成を図る。</li> </ul>			
	授業のICT化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業の質的改善に取り組んでいると答えた教員は、91.7%で、前年の88.9%よりも向上した。(前年比2.8ポイント増)</li> <li>○公開授業週間では、7月にオンラインで授業研究会を、11月には各教科で公開授業を実施。</li> <li>○教育センターGIGAスクール推進室より講師を招き、ICT教職員研修を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他の教員の授業を年2回以上参観し、振り返りシートでフィードバックする。</li> <li>○クロームブックやタブレット端末を効果的、かつ定期的に活用した授業を実施している教員が50%以上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○協同学習重点授業科目を決定し、授業プランシートを活用した授業公開を実施する。</li> <li>○ICTの授業活用事例の職員研修を行い、授業改善を促進する。</li> </ul>			
2 規範意識と多様性の受容力の向上	人と関わる力の増大	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒は46.1%(R3.12月現在)。</li> <li>○対人関係でストレスを持つ生徒や自己肯定感の低い生徒も多い(保健室来室者実人数79人、教育相談数41件)。</li> <li>○1年次生対象に自己理解・他者理解講演会、2年次生対象に性教育講演会を実施。(12月)</li> <li>○1年次生対象に食育講演会、3年次生対象に食育映画鑑賞会、希望者対象に簡単朝食講習会(家庭クラブ)を実施。</li> <li>○問題行動事案での指導件数が3件。</li> <li>○学期ごとに目標設定と振り返り(アンケート、口頭発表)を行い、行事ごとに振り返りを行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自尊感情や自己有用感に関するアンケート項目に、肯定的な回答をした生徒が50%を超えている。</li> <li>○「他者理解において成長を実感できた」と回答する生徒が85%以上。</li> <li>○朝食を全くとらない生徒が5%未満。</li> <li>○暴力行為、暴言、器物破損等の指導件数が0件。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学期ごとに目標設定と振り返りの時間を設け、自己の成長を客観視させる。</li> <li>○自己理解・他者理解講演会、性教育講演会を実施する。</li> <li>○食育講演会、食育映画鑑賞会を実施する。</li> <li>○地域貢献・連携活動をととして、生徒自身に成功体験を積みませ、自己肯定感を高める。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答した生徒が77.5%で、前年比14.3ポイント減。</li> <li>○「学びの成果発表会」において指導助言者から、「地域を学びのフィールドとした取り組みが学年進行することに充実している。」と高評価を得た。</li> <li>○「日野高ショップ」、「日野高校・小学生交流学習」、「Weスポーツ」等を通して地域連携・地域貢献を果たした。</li> <li>○生徒会執行部を中心に、学校祭の企画運営や「はるかひまわり」の活動、学校評価アンケートによる現状把握への取り組み等、積極的に取り組む姿勢がみられた。</li> <li>○「ゴミ減量チャレンジ」を行い、学期末に表彰した。</li> <li>○「ゴミ出さないDay」を5月に実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「地域と連携した学びが充実している」と肯定的に回答する生徒が80%以上。</li> <li>○地域の人材・資源を活用した授業等を実施し、生徒が地域を知り、地域に対して自分ができていることを考えるようになる。</li> <li>○生徒が主体的に部活動、生徒会活動、学校行事、地域貢献等の活動に取り組めるようになる。</li> <li>○前年の可燃ゴミの総量を超えないようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間(日野探究Ⅰ・Ⅱ)」の授業において、話し合いや振り返りの時間を確保し、主体的対話的な深い学びを促進する。</li> <li>○生徒会執行部を中心に生徒自身が主体的に活動を行い、その活動の中から実現可能な地域貢献を行う。</li> <li>○「ゴミ出さないDay」等の減量意識啓発活動を行う。</li> </ul>			
4 働き方改革の推進	勤務時間管理及び働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人当たり月平均時間外業務時間が7.1時間であった(前年比26.8ポイント増)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○時間外勤務を前年比30%削減する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○会議を減らし、時間外業務の削減を図るとともに、組織的な業務運営を推進し、校務運営の効率化と業務の平準化を図る。</li> <li>○部活動計画を月毎に立案し、計画に即した部活動指導を行う。</li> </ul>			

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直  
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]